

博士論文全文に代わる論文内容の要約

① 学位論文題名 児童の小学校への適応に向けた養護教諭の役割に関する研究
～保幼小連携を中心に～

② 学位授与者氏名 三上 眞美 (みかみ まみ)

③ 全体要旨

本論文は小学校入学にあたり、学校生活上で特別な支援や配慮を要する児童の早期支援体制確立のため、保幼小連携の実態を調査し、そこで養護教諭が専門性を生かしてどのように関わっていくかを明らかにすることを目的としている。主な研究内容として、保幼小連携や養護教諭の職務に関する先行研究の概観、保幼小連携への関与や小学校入学前後の児童の支援に関する養護教諭を対象にしたインタビュー調査、要配慮児童の保護者を対象にした小学校入学時の不安や学校側に望む配慮等に関するインタビュー調査、保幼小連携の実態や養護教諭に期待される役割等に関する、園の5歳児担任と小学校1年生担任等を対象にした質問紙調査を行っている。保幼小連携の実態から課題を明らかにし、今後の保幼小連携のありかたや養護教諭が果たすべき役割について提言している。

④ 研究目的と章構成

本研究の目的は、小学校入学にあたり、学校生活上で特別な支援や配慮を必要とする児童の早期支援体制の確立のため、保幼小連携の実態を調査し、そこで小学校養護教諭が専門性を生かしてどのように関わっていくかを明らかにすることである。

・章構成 第1章 本研究の背景

第1節 子どもを取り巻く健康課題

第2節 養護教諭に求められる役割

第2章 保幼小連携に関する研究レビュー

第1節 問題と目的

第2節 保幼小連携についての文献選択方法

第3節 結果

第4節 考察

第3章 本研究の目的

第1節 本研究の意義と目的

第2節 本論文の構成

第3節 基本概念の定義

第4章 養護教諭と保幼小連携の実際

～小学校養護教諭のインタビュー調査から～

第1節 目的

第2節 方法

第3節 結果

第4節 考察

第5章 保護者が小学校入学に関して小学校に望む配慮

～保護者へのインタビューを通して～

第1節 目的

第2節 方法

第3節 結果

第4節 考察

第6章 保育所・幼稚園・認定こども園と小学校の連携に関する調査

～保育者および小学校教員を対象に～

第1節 目的

第2節 方法

第3節 結果

第4節 考察

第7章 総合的考察

第1節 本研究のまとめ

第2節 今後の保幼小連携に向けて

第3節 本研究の限界と今後の課題

⑤ 各章要約

第1章では、研究の背景として2017年3月に文部科学省から出された「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援 ～養護教諭の役割を中心として～」から、児童生徒に多様な健康課題が生じていること、身体的不調の背景が複雑化していることに触れ、専門的な視点での対応が必要になっている状況について述べた。また、養護教諭の歴史について触れ、養護教諭が児童・生徒の健康の保持増進に関わる活動を担う教育職員として制度化されるまでの経緯について説明した。現代では児童生徒の保健及び環境衛生の実態の把握、心身の健康に問題を持つ児童・生徒の個別指導、健康な児童・生徒への健康の増進に関する指導、健康課題への対応のため、学校の教育力・組織力を効果的に高めていくことが求められ、2018年12月に中央教育審議会答申で「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」の提言がなされた。養護教諭の役割は2008年に文部科学省から出された「子どもの心身の安全を守り、安心・安全を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」（答申）にも示されているように、学校内外との連携を行う際のコーディネーターとしての役割など、多岐にわたっていることを述べた。

第2章では、保幼小連携の取り組みが行われている中で、今後の養護教諭の専門性を生かした支援のあり方を検討するため、先行研究のレビューを行った。関連する研究において松本・須川（2014）は、養護教諭は一般教諭と違った全校の子どもを幅広く見守れる立場にあり、保健室の機能を生かして気になる子どもの背景にある問題に気付くことができる」と述べていた。また、学校全体の様子だけでなく、一人ひとりの児童の健康状態を把握しているため、校内だけでなく関係機関との協力・連携を進めるうえで医療機関と連携を取りやすく、医学的な知識をもつ唯一の教員として専門的な視点で組織に関わることができること等が述べられていたが、保幼小連携と養護教諭の役割についての先行研究はほとんど見受けられないことが示された。

そこで、第3章では、小学校入学にあたって学校生活上で特別な支援や配慮を必要とする児童の早期支援体制の確立のため、保幼小連携の実態を調査し、そこに養護教諭が専門性を生かしてどのように関わっていくかを明らかにすることを研究の目的とした。

第4章では、小学校養護教諭10人にインタビューを行い、保幼小連携にどれだけ関与しているか、また、来年度入学してくる児童の情報をどのようにして得て、入学後の支援に役立っているのかを調査した。その結果、就学時健康診断や保健調査票、保育所・幼稚園、認定こども園との引き継ぎ会議等で情報は得ているが、地域によっても引き継ぎの方法が異なり、課題も見られた。養護教諭は健康に関する配慮が必要な児童がいる場合に引き継ぎ会議に出席していた。それ以外は管理職や特別支援教育コーディネーターから情報を得ていた。そのようにして得られた情報をもとに入学後の定期健康診断時の配慮に生かしたり、保護者と連携しながら個別の支援や配慮を行ったりしていた。

そこで第5章では保護者支援に着目し、学校生活上で配慮が必要な疾患や発達に課題のある幼児・児童の保護者の保護者6人にインタビューを行い、小学校入学にあたって小学校教職員に伝えたいことや、伝えなかったこと、抱えている不安について調査した。その結果、保護者が保育所・幼稚園・認定こども園等との話し合いや工夫を重ね、周囲の理解を得ながら子どもの成長を支え、見守ってきた経緯が明らかになった。保護者は小学校にわが子の理解を強く望んでおり、小学校養護教諭へは継続した見守りや、保健室で個別対応を受けることができる安心感と期待感があることが明らかになった。これらの結果から、保護者や子どもが安心して学校生活を送ることができるように、小学校入学時や進級時には配慮事項だけでなく、保護者の不安や願いなども丁寧に引き継いでいく必要があり、健康面の引き継ぎには養護教諭の専門的な視点で関わっていく必要があることが明らかになった。

第6章では、保幼小連携に関わることが多い保育所・幼稚園・認定こども園の5歳児担任と、小学校1年生担任、特別支援教育コーディネーターを対象に質問紙調査を行い、実際に行われている保幼小連携の実態や、養護教諭に期待される役割等について尋ねた。その結果、保育所・幼稚園・認定こども園の96.3%以上、小学校の97.3%が保幼小連携は「非常に必要」「必要」と回答していた。実際に行われている連携は「入学前に行われる連絡（引き継ぎ）」「低学年との交流」が多かった。「養護教諭の引き継ぎ会議参加の必要性」に関しては、「健康面」「アレルギー」については保育所・幼稚園・認定こども園側も小学校側も必要だと回答していたが、個別対応が必要な子どもや、保護者支援が必要な家庭については、保育所・幼稚園・認定こども園側のほうが養護教諭に期待を寄せていることが明らかになった。引き継ぎ会議は6割近くが年度末の3月に行われており、小学校養護教諭の出席に関して小学校側は「欠席」という回答が49.1%と最も多

く、次に「必要時に出席」という回答が27.4%であった。保幼小側は「わからない」と回答した人が34.9%と最も多く、出席していても、普段の連携がないと養護教諭だと認識されていない可能性もあると考えられた。

第7章では総合的考察として、研究結果をふまえて、小学校養護教諭が今後の保幼小連携において果たすべき役割について提案をした。小学校養護教諭は可能な限り保育所・幼稚園・認定こども園との引き継ぎ会議や連絡会議に出席し、健康の保持増進に関する専門性やコーディネーターとしての役割を發揮して、保幼小連携に貢献していく必要がある。その際には配慮事項だけでなく、保護者の不安や願いも丁寧に引き継ぎ、担任とともに児童や保護者を支える役割を果たすことが大切であるということが示唆された。

⑥ 全体の結果や考察（⑤に「第7章 総合的考察」を含むため、省略）

⑦ 主な引用文献・参考文献

引用文献

赤木信介・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・高橋智(2016). 就学前教育と小学校の接続・連携に関する調査研究－「松江市保幼小接続カリキュラム」の検討を通して－東京学芸大学紀要, 67(2), 53-68.

廣居美貴子, 鈴木庸裕(2011). 小学校と保育所・幼稚園との連携－「引き継ぎ」と特別支援教育コーディネーターの位置に焦点をあてて－, 福島大学総合研究センター紀要, 11, 59-66.

本郷一夫・飯島典子・平川久美子(2010). 「気になる」幼児の発達の遅れと偏りに関する研究 東北大学大学院教育学研究科研究年報 ,58(2),121-133.

今中綾子(2011). 特別支援教育における幼小連携－早期の支援とその移行－ 大阪市教育センター研究紀要, 197, 111-144.

今中綾子(2017). 気になる子どもの早期支援と保幼小連携 ―大阪市の取組みから― 教育と医学 慶応義塾大学出版, 764, 126-133.

伊勢正明(2012). 特別支援教育制度における保育所・幼稚園・小学校間の接続および連携の課題 帯広大谷短期大学紀要, 49, 73-84.

石田祥代・岡田加奈子・砂上史子・宮寺千恵(2017). 学校教育・社会福祉分野における昭和期の「養護」の使われ方と意味の多様性・共通性 ―養護教諭教育, 特別支援教育, 保育・幼児教育, 社会福祉の各領域に関する分析から― 千葉大学教育学部研究紀要, 66(1), 73-86.

石舟博子・郷木義子・廣原紀江(2014). 通常学級に在籍する発達障害児への学校健康診断における配慮 ―養護教諭を対象とした調査より― 小児保健研究, 73(5), 712-720.

岩井法子・中下富子(2013). 発達障害のある児童の支援における養護教諭と特別支援教育コーディネーターとの連携 学校保健研究, 55, 436-445.

河口麻希・七木田敦(2014). 保幼小連携に対する保育者と小学校教諭への意識調査 ―具体的な「伝えたい情報」と「知りたい情報」の比較から― 広島大学大学院教育学研究科紀要, 63(3), 81-90.

河口麻希・七木田敦(2017). 小学校特別支援学級担任における保幼小連携に関する実態調査―年長担任・1年生担任との比較― 特別支援教育実践センター研究紀要, 15, 97-103.

小林磨由子・竹下誠一郎(2009). 養護教諭の特別支援へのかかわりについて ―養護教諭が行う支援の現状と課題― 茨城大学教育学部紀要 教育科学(58),237-245.

公益財団法人 日本学校保健会(2018). 就学時健康診断マニュアル(平成 29 年度改訂).

厚生労働省(2018). 保育所保育指針解説, フレーベル館

久原有貴・七木田敦・小嶋治鈴・松本信吾・玉木美和・金岡美幸・関口道彦・大野歩・金子嘉秀・河口麻希(2012). 発達に課題のある幼児の就学支援シート作りに関する実践的研究―地域の小学校との連携を通して― 広島大学学部・附属学校共同研究紀要,41,141-149.

松本禎明・須川果歩(2014). 発達障害の子どもの支援に関する小学校教諭の意識に関する研究 九州女子大学紀要, 50(2), 169-185.

文部科学省(2008). 中央教育審議会, 子どもの心身の健康を守り, 安全・安心を確保するために学校全体としての取り組みを進めるための方策について (答申),
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1216829_1424.html
(2018年7月10日) .

文部科学省(2010). 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のあり方について(報告),
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/070/houkoku/1298925.htm
(2018年7月30日) .

文部科学省(2015). 中央教育審議会, チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(答申), http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1365657.htm
(2018年7月10日).

文部科学省(2017). 現代的健康課題を抱える子供たちへの支援 ―養護教諭の役割を中心として―.

文部科学省(2018). 幼稚園教育要領解説, フレーベル館.

中島育美・水内豊和(2013). 小・中・高等学校における発達障害のある児童生徒に対する養護教諭の意識 小児保健研究, 72(3), 435-445.

小保方昌子・佐久間路子・堀江まゆみ(2008). 特別支援教育における幼小連携に向けた就

学前教育における実践的課題－障害のある子どもへの支援に関する保育現場ニーズ調査より－ 白梅学園短期大学 教育福祉研究センター研究年報, 第13号 p61-65.

小野綾花・水野智美(2014). 就学時健康診断における養護教諭の発達障害児への気づきと支援に関する研究 障害理解研究, 15, 29-37.

大谷 尚(2007). 4 ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案－着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き－ 名古屋大学大学院教育発達科学研究紀要 (教育科学), 54(2), 27-44.

大谷 尚(2011). SCAT : Steps for coding and Theorization ー明示的手続きで着手しやすく小規模データ分析手法ー感性工学, 10, 155-160.

大塚類(2012). 「気になる子ども」に対する保育者の専門性ー幼小連携における課題に着目してー 千葉大学教育学部研究紀要, 60, 177-181.

斎藤富由起・中井優香(2016). 保幼小連携における発達障がいの支援の実態と保護者の支援ニーズに関する研究 千里金蘭大学紀要, 13, 7-19.

関根夢・大庭重治(2015). 特別支援教育における養護教諭の位置づけに関する現状と諸課題 上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要, 21, 5-9.

新村出(2018). 広辞苑<第七版>, 岩波書店.

新保真紀子(2001). 「小1プロブレム」に挑戦するー子どもたちにラブレターを書こうー 明治図書出版.

白神敬介・黒岩香菜(2017). ー保育所ー小学校の地域に着目した保幼小連携の地域要因の検討 上越教育大学研究紀要, 36(2), 338-346.

白神敬介・周東和好・吉澤千夏・角谷詩織(2017). 幼児期に求められる指導内容についての
保育者と小学校教員の考えの相違 上越教育大学研究紀要, 37(1), 50-55.

白石晴香・水野智美(2012). 発達障害児への支援における養護教諭の認識と研修ニーズ
障害児理解研究, 14, 35-42.

津島ひろ江・荒木田美香子・池添志乃・岡本啓子 (2020) .養護教諭養成講座① 学校に
おける養護活動の展開 改訂 7 版, 9-13 ふくろう出版.

上野ひろ美(2007). 保幼小連携の課題に関する考察 教育実践総合センター研究紀要, 16,
109-122.

矢野洋子, 荒木みなみ, 猪野善弘(2015). 発達障害の子どもへの支援に求められる養護教
諭の役割 I 九州女子大学紀要, 52 (1), 57-66.

参考文献

長谷部比呂美・池田裕恵・日比暁美・大西頼子(2015). 保育者評定による最近の幼児に見ら
れる変化 ―小1プロブレムの背景要因― 淑徳大学短期大学部研究紀要, 54, 31-48.

平井美幸(2014). 養護教諭が行う保護者支援と保護者の支援ニーズに関する文献レビュー
大阪教育大学紀要 第IV部門 63(1), 147-154.

平井美幸・中下登美子(2017). 保護者の信頼関係構築プロセスにおける養護教諭が行う保
護者支援とその影響要因 日本健康相談活動学会, 12(1), 24-35

平松恵子・新沼正子(2021).多様化する特別な支援を要する児童生徒への養護教諭の対応
姫路大学教育学部紀要, 14, 9-13.

石田祥代・岡田加奈子・砂上史子・宮寺千恵(2017). 学校教育・社会福祉分野における昭和

期の「養護」の使われ方と意味の多様性・共通性 ―養護教諭教育、特別支援教育、保育・幼児教育、社会福祉の各領域に関する分析から― 千葉大学教育学部研究紀要, 66(1), 73-86.

鎌塚優子, 柘植正義, 永井利三郎, 古川恵美(2015). 養護教諭のための発達障害児の学校生活を支える教育・保健マニュアル, 164-169, 診断と治療社.

文部科学省(1997). 中央教育審議会答申, 養護教諭の新たな役割,
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/029/shiryo/05070501/s007.htm
(2018年7月10日).

無藤隆(2018). 育てたい子どもの姿とこれからの保育 ―平成30年度施行 幼稚園・保育所・認定こども園新要領・指针对応―, ぎょうせい。

大谷 尚(2019). 質的研究の考え方 研究方法論から SCAT による分析まで 名古屋大学出版会.

すぎむらなおみ(2014). 養護教諭の社会学 学校文化・ジェンダー・同化, 名古屋大学出版会

鈴木まゆみ(2018). 保幼小連携の課題に関する一考察 ―私立幼稚園、認定こども園へのアンケート調査の分析から― いわき短期大学研究紀要, 51, 143-161.

筒井康子・脇村桂子(2012). 幼稚園における保健活動の実態と養護教諭の必要性 九州女子大学紀要, 49(2), 55-72.

上田ゆかり(2017). 特別な支援が必要な幼児への支援体制に関する検討 ―幼稚園における教職員の連携に関する調査より― 姫路大学教育学部紀要, 10, 1-7.